

## 第116回森で遊ぶ会・実施報告書 (磐田市・桶ヶ谷沼)

1 実施日時 平成25年1月12日(土)

2 参加インストラクター

担当: 小久保、高橋 アシスト会員: 井上、青野、越智、内野、矢下、藤田、廣野

3 参加者 一般19名(募集: クチコミ、パンフ配布、HP、静岡新聞と磐田市広報に掲載)

4 概要

晴れてこの時期にしては風も強くなく、天候に恵まれた観察会になった。事前の広報や勧誘に力を入れたせいもあって、思いの外大勢の参加者が集まった。冬鳥も見ながら照葉樹林の樹木観察という触れ込みだったが、鳥をメニューに加えたせいもあるのだろう、「森で遊ぶ会」には初めて参加したという人が多かったようだ。

参加者には桶ヶ谷沼のビジターセンターに集合してもらい、10時~2時半頃にかけて昼食を挟んで観察会を行った。西回りのコースで桶ヶ谷沼をほぼ一周し、更に隣接する鶴が池にも脚を伸ばした。この時期、落葉樹はことごとく葉を落としており、また常緑樹の実も殆ど落ちているので、樹木観察には今ひとつの条件だ。しかしインストラクターがそれぞれに木々の枝振り、樹皮、冬芽、また常緑の葉などこの時期の樹木毎の特徴や、その見分け方、また生きるための樹木の知恵などを解説すると、参加者は「なるほど、知らなかった、面白いものね」などと興味深そうだった。とりわけ、シロダモ、クス、ヤブニッケイ、タブノキ、カゴノキなど多様なクスノキ科の樹木や極相林になったシイとカシ類、そして低層を形作るサカキ類やツバキなど、暖地の照葉樹林に特有の樹種についての解説は、「初めて聞いた」という人も多かったようだ。今回の参加者は比較的初心者が多かったようなので、改めてこうした樹木観察の楽しさ、意義深さに触れてもらえたと思う。

冬鳥については、今回の「売り」であるコハクチョウを鶴が池で間近に見ることができ、皆大喜びだった。また用意したフィールドスコープで、ヨシガモなどの美しいカモ、キンクロハジロなど特徴あるカモの姿も見てもらった。しかし残念ながらもう一つの「売り」であるトモエガモの姿は認められなかった。それでも今回視認できた野鳥は、マガモ、コガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、ヒドリガモ、ヨシガモ、コハクチョウ、オオバン、カイツブリ、ダイサギ、アオサギ、カワウ、オオタカ、チョウゲンボウ、モズ、シロハラ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、クロジ (♂)、ルリビタキ (♀)、ジョウビタキ (♀)、シジュウカラ、ヤマガラ、エナガ、コゲラ、キセキレイ、ハクセキレイ、メジロ、ヒヨドリなど30種余りに上った。但し樹木観察のため移動しながらの探鳥なので、水鳥以外の野鳥はすぐ移動してしまい、多くの野鳥を実際に見ることができた参加者が一部に限られたのは残念だった。それでも、好天に恵まれ、また期待通りのコハクチョウの歓迎も受け、参加者は皆満足したようで「楽しかった」という感想が多く聞かれた。



以上

すぐ目の前にコハクチョウが姿を現した

